

地域のまつり・イベントの新しい広がりに関わり方は？



地域のまつり・イベントは どう変わる？

今回の議長の目^{アイ}ラン^ドは、歌えない・踊れない議長が、過去15年以上の個人出店・イベント参加の知見も交えてお伝えしたいと思います。

地域の活性化には、小学校・中学校などの校区や神社単位での集まりが、顔が見えて連携しやすいと思います。当新島村も3地区それぞれの特徴があり、まつり・イベント単位でも、観光客と島民のどちら向けか、ステージの観覧が中心か、参加する演目が中心かなど、いくつか方向性があると思います。

島民まつり2024に新しい試みを！

さて、このたび11月10日は島民まつり2024が予定されています。地域の大人だけでなく、児童・生徒や、時には一時的に島に住まわれる方にとっても、それぞれの思いと得意分野を持ち寄ること、このまつりが地域に関わる機会になってほしいと思っています。

そこで私は島民まつり実行委員会の副委員長として、第一回の実行委員会において、小中・高校生たちが学んだことを発表できたり、飲食店以外でも出店・出展できたりするような募集をしてはどうかと提案しました。結果的に採用されることになり、広報にいじまお知らせ版やサイトを通じて参加者が募集されました。

まつり・イベントへの新しい関わり方が！

募集の結果、新島小学校の6年生が、総合の時間『島自慢課』活動の一貫として、応募してくれました。

「島の方々や観光に来てくれる方々に、新島のよさや魅力を改めて知ってもらいたい。自分たちが島自慢課として活動を知ってもらいたい」という思いを持っての参加です。

内容は、島自慢課の経過報告、アンケート等の実施と回答を増やすためのイベント、開発中の商品の予告なども検討しているようです。

このような活動が定着してくれば、一年間の学習計画の中に【まつり】を位置づけることができ、先生も子供たちも無理なく地域への接点ができるかと思いま

す。地区ごとのまつりを尊重しつつ、新しい担い手を交えて地域全体で模索できたらと思います。

▶新島小学校の総合の授業において、地域内イベントについてのゲスト講師でお邪魔した際の説明スライド「島民まつり」の出店を提案しましたが、盆祭と比べても児童や教員にとって時期・時間帯的に参加しやすいまつりであると思われま